

「いかし・ひろめる」施策を推進 自転車先進都市・金沢の取り組み

金沢市長
山野之義



「自転車・バイク・自動車駐車場
パーキングプレス」誌 発行人
森井博



【プロフィール】

山野之義（やまのゆきよし）
昭和37年3月30日生まれ。昭和62年3月慶應義塾大学文学部卒業。ソフトバンク株式会社を経て平成7年4月金沢市議会議員選挙に立候補、平成22年11月まで務める。平成20年12月19日～平成21年6月11日 金沢市議会第104代副議長。平成22年11月に金沢市長選挙に立候補、初当選。12月10日金沢市長就任。平成26年8月18日に辞任し、同年10月7日出直し選挙にて再選。平成26年12月10日（二期目）、平成30年12月10日（三期目）を経て現在に至る。

本特集対談の最後のページに記した私のプロフィールにあるとおり、私は石川県金沢市で育った。金沢市には私の会社(サイカーキング、モリスコーポレーション、日本駐車場救急サービス)の支店があり、毎年、新年会に出席している。また、金沢市へも毎年年初のご挨拶に伺っており、今年は山野之義市長にお目にかかる機会を得た。その際、中学校(金沢市立野田中学校)、高校(石川県立金沢泉丘高校)ともに私の後輩であったことが分かって話が弾み、対談のご依頼をさせていただいたところ、快く承諾していただいた。

元々金沢市は、本誌やパーキング業界との縁が深い都市だ。2014年3月号の本特集対談では、当時、画期的な自転車走行空間として話題になり、現在も使われている金沢市の「自転車走行指導帯」の生みの親となった三国千秋・成子夫妻にご登場いただいた。また、シェアサイクル「まちなり」の成功や、いち早く自転車損害賠償保険の加入を義務化するなどの取り組みも注目されている。

そんな金沢市のリーダーである山野之義市長は、今後、自転車、あるいは交通行政をどのような方向に牽引していくのだろうか。金沢市役所を訪ねた。

(対談収録：2019年10月3日)

シェアサイクル「まちなり」は2020年春、次のステージへ

森井 まずは、金沢市のシェアサイクル「まちなり」についてうかがいます。平成22年の社会実験に始まった「まちなり」は、市内の公共交通を補完する移動手段としてすっかり定着しました。

山野 平成24年3月の導入から8年目を迎え、累計110万回、40万人を超える方々にご利用いただきました。今では「まちなり」がまちを快走する姿は、金沢の風景として浸透した感があります。

森井 シェアサイクル導入の背景から

お聞かせください。

山野 金沢市では、平成19年に「新金沢交通戦略」を策定し、「歩行者と公共交通優先のまちづくりの実現」をめざし、さまざまな事業に取り組んでまいりました。平成27年3月の北陸新幹線金沢開業を見据え、来街者の回遊性向上のための二次交通の充実、市民の足としての都市内交通の補完、まちなかの賑わい創出、環境負荷の低減などを目的に導入したのが「まちなり」です。ハードは市が整備し、運営は事業者が行う公設民営の運営形態を採用しています。

森井 「まちなり」成功の背景には、各種サービスが充実している点もあると推察しますが。

山野 おっしゃるとおりです。「まちなり」はサイクルポートで貸出・返却を行うシェアサイクルのほかに、1日レンタルのサービスもあります。この1dayパス自転車は、電動アシストタイプのまちなりハイブリッドと通常タイプのワンデイがあり、利用目的や予算に合わせて選んでいただけます。金沢めぐりを楽しんでもらうために、商店街と連携し、サイクルポートの端末機から発券したクーポンを対象店舗で提示すると期間限定で特典が受けられる事業や、参加無料

のサイクリングツアーを実施するなど、「まちなり」のPRも積極的に行ってきました。

森井 金沢が誇る名店とコラボした醬油やドリンク、お菓子などオリジナル商品の販売もユニークですね。

山野 ありがとうございます。事業者によるさまざまな取り組みもあり、着実に認知度が向上し、新幹線開業後の大幅な利用増につながりました。しかしながら、課題もあります。「まちなかでの行動範囲が広がった」「他の交通手段より安く移動できた」など利用者の満足度は極めて高い一方、「ポートの位置が分かりにくい」「利用したいときに自転車がない」などの意見もあります。また、利用者増加に伴い、修繕費や再配置業務などの経費が増加したにもかかわらず、それに見合う収益が得られていないことや、観光客の利用が9割を占め、市民の利用が進んでいないことも課題です。

森井 そうした課題に対してどのような改善策を考えていらっしゃいますか。

山野 課題を踏まえて、来年3月に新しい「まちなり」をスタートさせる予定です。新しい「まちなり」では、電動アシスト機能を全自転車に搭載します。エリアも拡充し需要の拡大をめざすほか、幅広い世



ユニークなまちなりのオリジナルグッズ。①直源醬油とのコラボ「大野のしずく」②金沢の老舗和菓子店「柴舟小出」がつくった「まちなりサブレ」③安政6年創業の茶舗「野田屋茶店」の抹茶粉末を詰めた「まちなりぐりんてい」④1dayパス自転車で乗れる電動アシストタイプのまちなりハイブリッド(写真提供：まちなり事務局)



代の利用を促進し、さらなる利便性の向上を図っていきます。

森井 ポートの位置も今より分かりやすくなりますか。

山野 スマートフォンでサイクルポートと自らの位置情報をリアルタイムで確認できるほか、ポートへの案内機能を導入する予定です。また、金沢駅やひがし茶屋街、金沢21世紀美術館など特に需要の多いエリアにおいては、サイクルポートの拡充を検討しています。さらに、市民の利用を進めるために、継続的な利用で割安になるような定期利用料金を設定しようと考えています。

森井 全自転車に電動アシスト機能を

搭載するのは、やはり利用者に体力的な負荷を下げて快適に乗ってもらおうという意図でしょうか。

山野 そのとおりです。会長はよくご存じかと思いますが、金沢は、浅野川・犀川という2つの川と、卯辰山、小立野台地、寺町台地という3つの台地からなり、小立野台地の先端に築かれた金沢城を中心に発展してきたため、意外と起伏が多いまちです。寺町台地には、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館が7月に開館し、小立野台地では来年夏に国立近代美術館工芸館の開館が予定されています。電動アシスト機能を搭載することで、坂の上にあるこれらのエリアにも観光客に訪れていただき、リピーターになっていただきたいという思いがあります。また、これまで利用の少なかった40歳代以上など幅広い世代への利用促進を図るねらいもあります。

森井 来春のリニューアルはどのような方法で周知されるのですか。

山野 運営事業者と協力しながら、金沢市の広報やホームページ、旅行雑誌の掲載などで広く市民や観光客の方々に周知していきます。原則、スマートフォンアプリによる事前登録が必要となりますから、登録キャンペーンなども検討していきたいと思っています。

自転車先進都市・金沢は活発な議論と連携で構築された

森井 ますます進化・快適な交通手段になる「まちなり」が楽しみです。さて次に、金沢自転車ネットワーク協議会についてうかがいます。平成23年の第1回協議会開催以来、金沢市、石川県、石川県警察、国土交通省が連携して継続してきた金沢自転車ネットワーク協議会による取り組みは、自転車先進都市・金沢を語る上で欠かせないものだと考えますが、いかがでしょうか。

山野 金沢自転車ネットワーク協議会は、平成19年に国土交通省が全国初のバスレーンを活用した自転車走行指導帯を整備したことをきっかけに、歩行者・自転車・クルマのそれぞれが安全に安心して通行できる道路空間の創出をめざし設立されました。協議会は、有識者、国土交通省金沢河川国道事務所、県、警察、市で構成され、定期的に協議会や勉強会を開催しています。私も勉強会に参加させてもらっていますが、参加者が立場を越えて活発な議論を行っており、こうした連携から金沢市内の自転車ネットワークが構築されてきたと感じております。



日本有数の観光都市・金沢には名所が集積している ①世界で最も美しい駅14選に国内で唯一選ばれた金沢駅鼓門 ②「まちに開かれた公園のような美術館」を建築コンセプトにした金沢21世紀美術館 ③谷口吉郎・吉生記念金沢建築館。金沢の名誉市民第一号の建築家・谷口吉郎氏の住まい跡地に、吉郎氏の長男で国際的に著名な建築家である谷口吉生氏的设计によって建設された (photo: Toshiharu Kitajima) ④兼六園の雪吊りは金沢の冬の風物詩 (写真提供: 金沢市)



森井 金沢自転車ネットワーク協議会が、これまでどんな活動をされてきたのか、その成果などをお聞かせください。

山野 平成25年には、国道・県道・市道の各道路管理者が統一的な基準による自転車通行空間整備を行うため、金沢の景観に配慮した独自の「金沢自転車通行空間整備ガイドライン」を策定しました。併せて、自転車交通量調査や通行経路調査結果に基づいて、中心市街地におけるネットワーク候補路線の選定を行いました。さらに平成28年には広域でのネットワーク候補路線を選定し、各道路管理者が計画的に整備を推進しています。整備路線においては、警察と連携した自転車マナーアップの街頭指導も毎月実施しています。これらの取組が功を奏し、平成30年の金沢市内における自転車事故件数は、平成20年と比較し、全国の事故減少率を上回る29%まで減少しています。

森井 素晴らしい成果だと思います。ところでガイドラインでは、金沢の美しいまちなみを壊さないために、どんな工夫や配慮をされているのですか。

山野 自転車通行空間を着色する場合、一般的には青色ですが、金沢の景観に配慮し、日本の伝統色である灰桜色としています。また、路面に表示する自転車のピクトグラムは、進行方向と同じ向きとなっていて、視覚的に左側通行とわかりやすいよう工夫しています。

法施行で好機到来 自転車施策を推進していく

森井 さて、平成30年夏に自転車活用推進法が閣議決定され、我が国も自転車先進国に仲間入りするための第一歩を踏み出しました。自転車先進都市・金沢の市長としてはどんな感想をお持ちですか。

山野 金沢市は、大きな戦禍に遭わなかったことから、藩政時代からの美しい

まちなみが残る城下町ですが、一方で狭く曲がりくねった道路があり、「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど雨が多い上、冬は降雪もあり、1年を通し自転車を活用するには課題が多い地域です。しかしながら、これまでマイカーに過度に依存しない「歩行者と公共交通優先のまちづくり」の基本理念の下、狭い道路空間であっても歩行者も安全かつ快適に歩くことのできる自転車通行空間整備や駐輪場の環境整備、自転車のルール遵守・マナーの向上などの施策を進めてまいりました。自転車活用推進法の施行により、国を挙げて自転車を活用する機運が高まり、自転車施策を推進する絶好の機会が到来したと捉えています。

森井 シェアサイクル普及や市内の自転車走行環境整備を他市に先駆けて行ってきた金沢市が果たす役割も大きいと思います。今後の展望をお聞かせください。

山野 今年度は、自転車活用推進法に基づく「金沢市自転車活用推進計画」を策定する予定です。そこに健康増進、災害対策、サイクルツーリズムの推進など、自転車をもっと「いかし、ひろめる」施策を盛り込んでいきたいと考えています。計画策定に向けて、サイクリングツアーや自転車を活用した健康増進モニター事業などを実施しました。新たな視点を加え、こども



から高齢者まで誰もが自転車をライフスタイルに取り込んでもらえるような施策を推進していきます。

森井 自転車を活用するために欠かせないのが自転車駐輪場です。従来は、単純に「駐輪する場所」という認識でしたが、現在は「交通結節点」「人の流れの基点」「公共的施設・都市施設としての機能」「観光、買い物などの情報発信」など新たな付加価値を求めるトレンドが生まれ、少しずつそうした機能を備える自転車駐輪場が登場しています。さらには、非常用電源の設置など災害対応の役割を担うことも期待されています。こうした傾向についてはどうお考えですか。



市内の至るところで自転車走行指導帯が整備され、ルールを守った自転車走行、車との道路のシェアが行われている。令和1年11月時点で市内の自転車通行空間整備済路線は35.9km(写真提供：金沢自転車ネットワーク協議会)

山野 金沢市では、主要な駅や中心市街地、バス停などの交通結節点44か所に市営駐輪場を設置しており、駅や中心市街地の駐輪場でも無料で駐輪できます。有料の自治体が多い中、無料運営には驚く人も多いですが、無料ということもあり、民間事業者を活用した思い切った設備投資等は困難な状況ではあります。

森井 確かに無料というのは希少な例だと思います。なぜ無料に設定されているのでしょうか。

山野 金沢市は、他の地方都市と同様、やはり車社会で、マイカーへの依存度が高くなっています。そこで交通政策として公共交通優先のまちづくりを進めており、特にまちなかへはマイカーではなく、公共交通機関や自転車の利用を促進しています。できるだけ自転車利用者を増やす目的もあり、まちなかでも駐輪場料金は無料に設定しているのです。また、無料にすることで、放置駐輪を減らし、美しいまちなみを保てることも考えています。

森井 なるほど。思い切った設備投資は難しい状況とのことですが、現在、駐輪場について進めている施策はありますか。

山野 駐輪場における防犯対策等の強化

はもちろん、電動アシスト自転車や三輪自転車などの大型自転車やスポーツタイプの自転車など多様化する駐輪ニーズに対応するなど、安全性・利便性のさらなる向上を図ることを、今年度策定予定の金沢市自転車活用推進計画で検討していきます。同時に、金沢の美しい景観を維持するため、放置自転車対策も強化していきたいと考えています。

自転車の保険加入を義務化 安全のために条例改正を敢行

森井 では続いて、「金沢市における自転車の安全な利用の促進に関する条例」の改正についてうかがいます。改正に至った背景からお聞かせください。

山野 北陸新幹線開業に伴い、歩いて観光する来街者が急増し、歩行者と自転車との事故のリスクが高まったことや本市の自転車事故が平成28年に増加に転じたこと、そして、全国的に自転車事故による高額賠償事例が発生していることなどを背景に、平成29年9月に条例を改正し、平成30年4月から施行しました。

森井 どんな改正をされたのですか。

山野 自転車は車両であることを改めて明記したほか、自転車損害賠償保険の加入を義務化、中学生以下の子ども及び70歳以上の高齢者を対象にヘルメットの着用を努力義務としたことなどが改正のポイントです。施行までにホームページやポスター、チラシ等による周知はもちろん、市と協定を締結した損害保険会社と連携した周知活動も行いました。とりわけ、中核市で初めて自転車損害賠償保険の加入を義務化したことで、マスコミ等に報道される機会も増え、自転車のルール遵守・マナー向上に関しても市民の関心が高まりました。

森井 1年半近くが経過した今、条例改正の成果、自転車利用マナーの意識向上など、手ごたえはいかがでしょう。

山野 増加に転じていた自転車事故が2年連続で減少し、平成30年には2年前に比べ約3割減少するなど大きな効果につながりました。また、昨年秋に自転車損害賠償保険の加入状況を調査したところ、加入が義務化されたことを知っている人は67.9%という結果でした。ただ、加入状況については20歳代と70歳以上の高齢者の加入率が低く、理由は「自転車に乗る回数が少ないから」「自転車保険についてよく知らない」など

でした。そこで、若年層に対しては企業や学校等への働きかけを行い、高齢者に対しては出前講座を開催するなど、損害保険会社・団体とも連携・協力しながら保険加入の必要性を周知し、きめ細かに対応していきたいと考えています。自転車マナーは一朝一夕で向上するものではありませんので、今後も継続的な啓発活動を実施してまいります。
森井 加えて自動車駐車場についてもうかがいたいと思います。令和元年7月1日からまちなか駐車場の区域、基準が変更され、届出が必要な区域の拡大や基準の



自転車保険の加入やヘルメット使用など自転車利用者に向けたポスター、おもいやりをもってハンドルを握ることを呼び掛けたドライバーに向けたポスターなど啓発活動も積極的に展開している

強化を行ったとうかがいました。この基準変更の狙いを聞かせてください。

山野 平成18年に策定した金沢市における駐車場の適正な配置に関する条例（駐車場適正配置条例）は、まちなかへの過度なマイカー流入の抑制や歩行者の安全確保を、駐車場の適正な配置という側面から実現することを目的としています。平成28年に実施した駐車場整備地区内における駐車場実態調査によると、平成21年の調査時より地区内の全駐車場台数は減少していますが、金沢駅以東については駐車場台数や箇所数は減っているものの、小規模な時間貸し駐車場が増加しました。また、金沢駅以西では、駐車場台数、箇所数ともに増えているという状況でした。さらに、金沢駅以東では、細街路における小規模な時間貸し駐車場の増加による住環境の悪化が、金沢駅以西では駐車場の増加等による交通環境の悪化が危惧されました。

森井 住環境や交通環境を守るための改正というわけですね。

山野 そうです。そのため、まちなか駐車場区域を駅西側まで拡大し、駐車場の届出



中高の先輩後輩ということもあって思い出話にも花が咲いた。首長のリーダーシップの強さが自転車をはじめとする交通施策の内容に直結する。今後の活躍に期待したい

を義務化するとともに、6m未満の道路沿いには駐車場の設置を控えることなどの基準の見直しを図ったところ。届出の際に基準に沿ったものとなるよう指導することで、駐車場の適正な配置に努めているところ。

森井 最後に、改めて訴求したい取り組み等をご紹介ください。

山野 冒頭で触れたように、シェアサイクル「まちのり」は来年3月のリニューアルに向け、公募型プロポーザルにより運営事業

者を選定したところ。これまで以上に皆様に愛される「まちのり」となるよう全力で取り組んでまいりますので、ぜひご期待ください。

森井 業界の人間としてはもちろんですが、故郷・金沢の変革ですからね、個人的にももちろん期待しています。自転車活用についても、今後どんな取り組みをを展開されていくのか目が離せません。本日はお忙しいなかお時間をいただき、誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々会長

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ81歳。
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
1961~1979年 石川島播磨重工業(現:IHI)
1979~1991年 東芝
1991年~ 現職

【趣味】 現在: ゴルフ・車・自転車・歌・仕事
過去: 水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】 ゴルフ: 毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。
車: 毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
自転車: 数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
歌: 六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。
仕事: 健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。
水泳: 小学校に入る前から泳ぎは得意。
野球: 中学生までは本気でプロになるつもりであった。
陸上競技: 高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。
テニス: 元テニスのコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂で断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

